

2016年12月期 第2四半期決算説明会

2016年8月5日（金）
株式会社タムロン （証券コード：7740）

I.第2四半期決算概要

1. 2016年上期総括	P.4
2. 2016年上期実績	P.5
3. 営業利益変動要因	P.6
4. 2016年セグメント別上期実績	
①写真関連事業	P.7
②レンズ関連事業	P.8
③特機関連事業	P.9

II.通期計画

1. 2016年通期計画	P.11
2. 営業利益変動要因	P.12
3. 2016年下期計画	P.13
4. 2016年セグメント別通期計画	
①写真関連事業	P.14
②レンズ関連事業	P.15
③特機関連事業	P.16

III.財務状況

1. 財政状態	P.18
2. 設備投資、減価償却費	P.19
3. 研究開発費	P.20
4. キャッシュ・フロー	P.21
5. 配当金の推移	P.22
6. 参考データ	
(1) 主要経営指標	P.23
(2) 為替感応度	P.24

IV.中期経営計画

1. 変革テーマ	P.26
2. 中期目標	P.27
3. 事業戦略	P.28

I . 第2四半期決算概要

I-1. 2016年 上期総括

【経営環境】

- 経済状況 ⇒ ドル・ユーロ共に円高基調、新興国経済減速等で企業の収益環境悪化。
- デジタルカメラ市場 ⇒ 市場低迷に加え、熊本地震の影響で第2四半期以降は大幅減。

※台数ベース前期比
(CIPA)

	1Q	2Q	上期
レンズ交換式カメラ	△1%	△28%	△17%
交換レンズ	△7%	△21%	△15%

【当社実績】

- 上期業績 ⇒ ドル・ユーロの円高による為替のマイナス影響等により、減収。
販管費減も、売上減に伴う粗利減、為替のマイナス影響を補えず減益。
- 2Q業績 ⇒ 減収ながら、原価低減による粗利率向上、販管費の削減等で、2ケタの増益。

【トピックス】

- 自社ブランド交換レンズでは、高仕様設計の「S P」シリーズのラインナップ拡充。
2月：S P 90mm F/2.8 V C U S D (F 017) のマクロレンズを発売
3月：S P 85mm F/1.8 V C U S D (F 016) の中望遠単焦点レンズを発売。

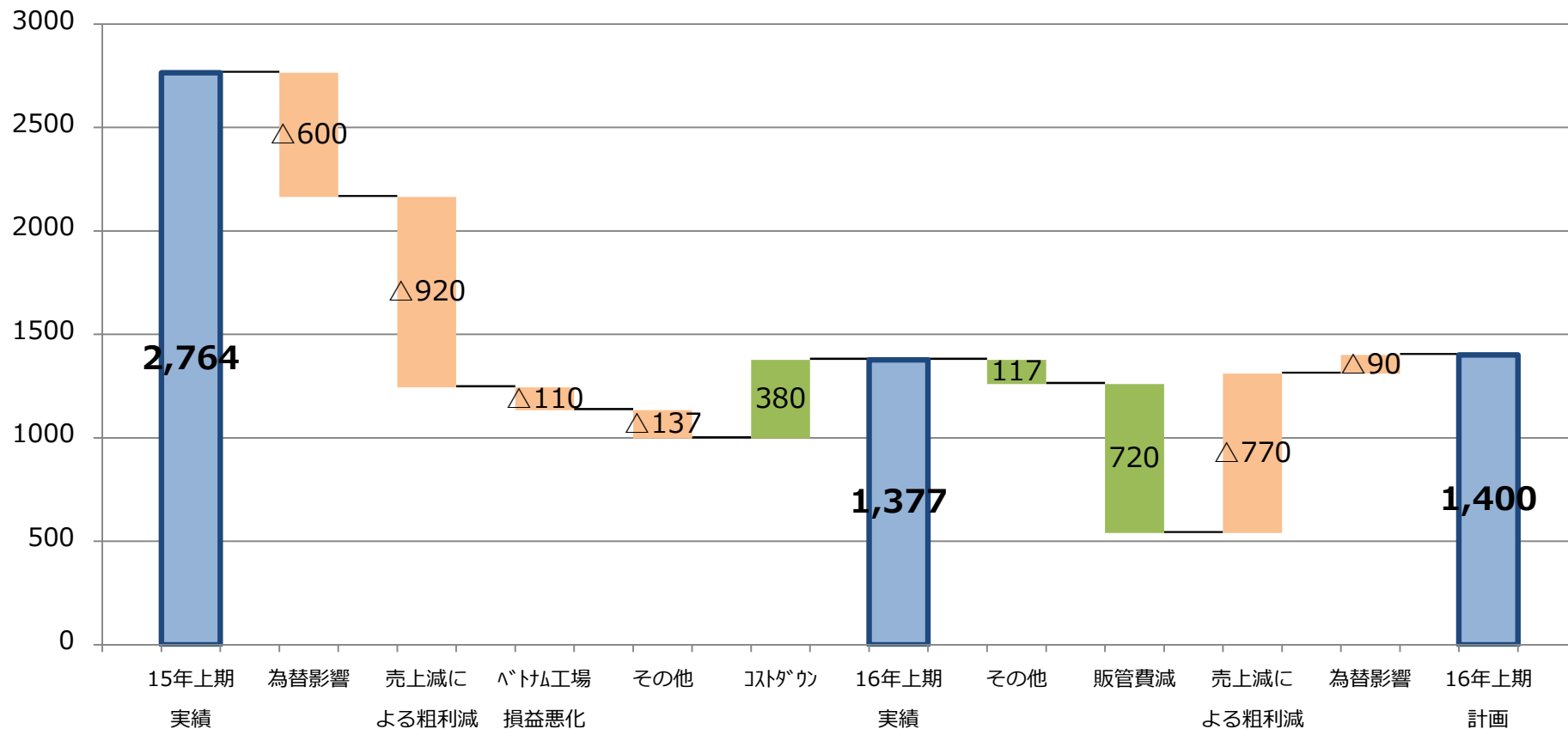
I -2. 2016年 上期実績

(単位：百万円)

	2015年 上期実績	2016年 上期計画 (4/28)	2016年 上期実績	増 減 (対前年上期)		増 減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	35,235	32,700	30,499	△4,736	86.6%	△2,200	93.3%
営業利益	2,764	1,400	1,377	△1,387	49.8%	△22	98.4%
営業利益率	7.8%	4.3%	4.5%	△3.3%	-	+0.2%	-
経常利益	2,819	1,400	1,486	△1,333	52.7%	+86	106.2%
経常利益率	8.0%	4.3%	4.9%	△3.1%	-	+0.6%	-
四半期純利益	2,678	940	934	△1,743	34.9%	△5	99.4%
純利益率	7.6%	2.9%	3.1%	△4.5%	-	+0.2%	-
ドル	120.31	112.70	111.72	△8.59	-	△0.98	-
ユーロ	134.14	126.10	124.56	△9.58	-	△1.54	-

I-3. 営業利益変動要因

(単位：百万円)

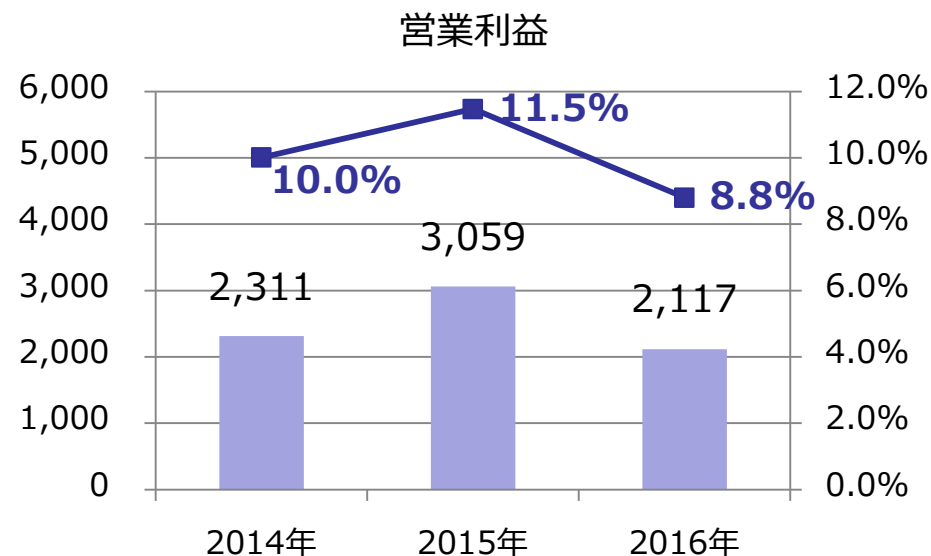
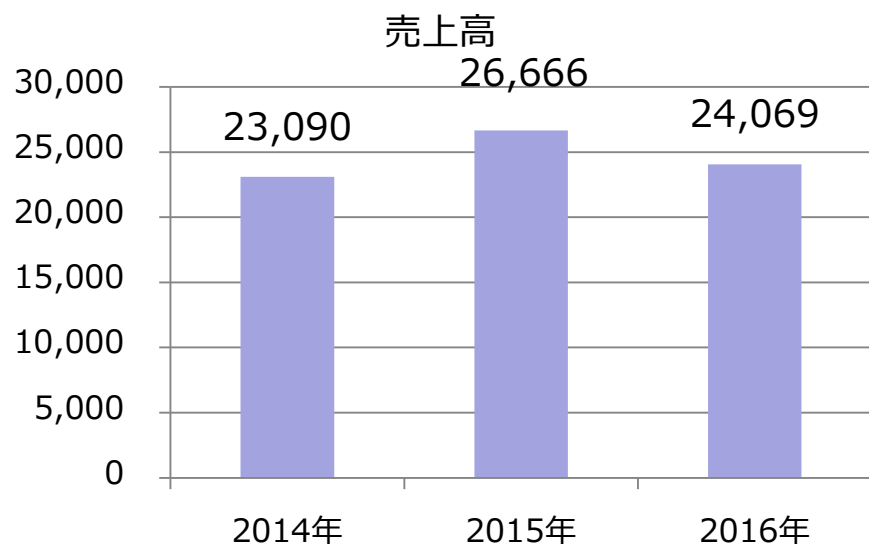


I -4. 2016年 セグメント別上期実績 ①写真関連



(単位：百万円)	2015年 上期実績	2016年 上期計画 (4/28)	2016年 上期実績	増 減 (対前年上期)		うち 為替影響 額	増 減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	26,666	25,400	24,069	△2,597	90.3%	△13.5億円	△1,330	94.8%
営業利益	3,059	2,200	2,117	△942	69.2%	△5.0億円	△82	96.3%
営業利益率	11.5%	8.7%	8.8%	△2.7%	-	-	+0.1%	-

➤ O E Mは受注モデル好調で増収。自社ブランドは「S P」シリーズラインナップ拡充も市場低迷で減収。

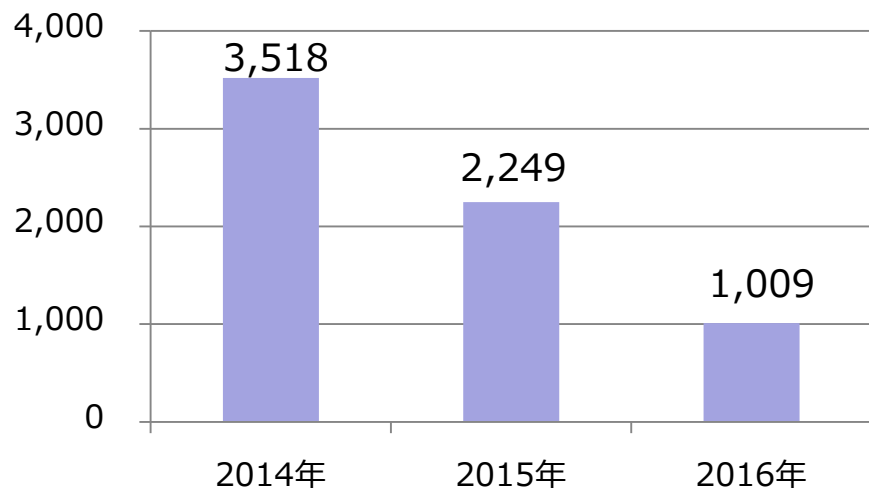


I-4. 2016年 セグメント別上期実績 ②レンズ関連

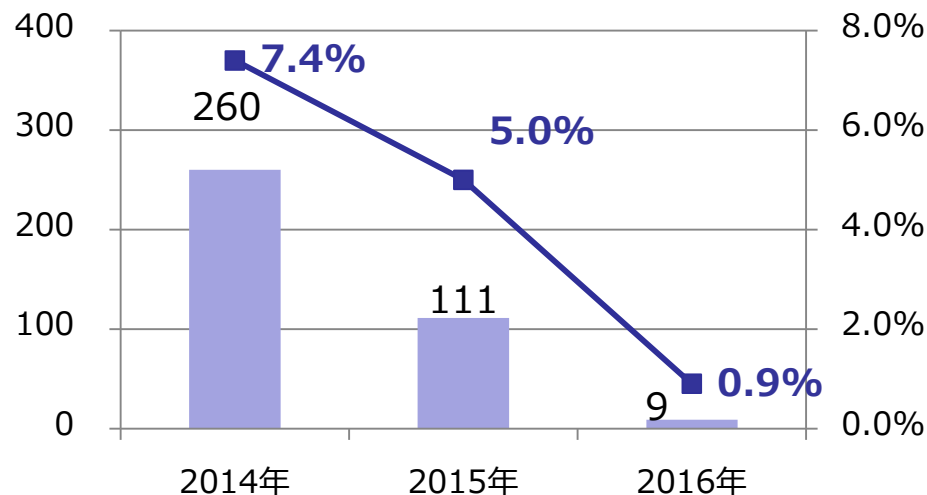
(単位：百万円)	2015年 上期実績	2016年 上期計画 (4/28)	2016年 上期実績	増減 (対前年上期)		うち 為替影響 額	増減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	2,249	1,400	1,009	△1,239	44.9%	△0.5億円	△390	72.1%
営業利益	111	0	9	△101	8.5%	- 億円	+9	-
営業利益率	5.0%	0.0%	0.9%	△4.1%	-	-	+0.9%	-

➤ 市場縮小の継続、熊本地震の間接影響等により減収。厳しい事業環境ながら黒字は確保。

売上高



営業利益



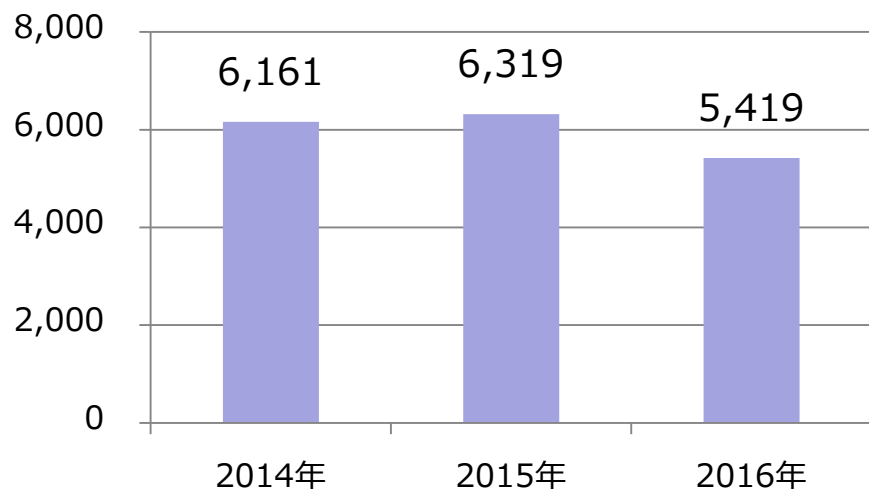
I -4. 2016年 セグメント別上期実績 ③特機関連



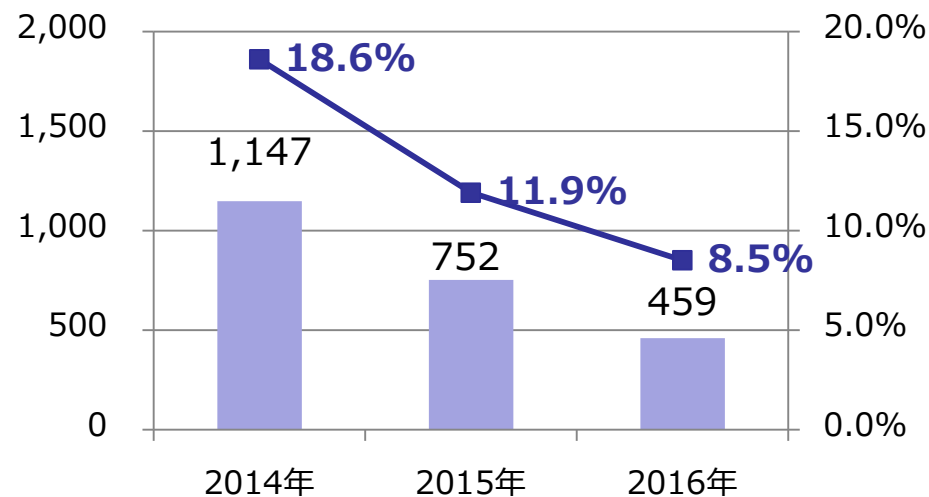
(単位：百万円)	2015年 上期実績	2016年 上期計画 (4/28)	2016年 上期実績	増 減 (対前年上期)		うち 為替影響 額(億円)	増 減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	6,319	5,900	5,419	△899	85.8%	△3.0億円	△480	91.9%
営業利益	752	500	459	△293	61.0%	△1.0億円	△40	91.9%
営業利益率	11.9%	8.5%	8.5%	△3.4%	-	-	±0.0%	-

➤ 車載カメラ用レンズは増収。監視カメラ用レンズは監視カメラメーカーシェア変動による影響等により低迷。

売上高



営業利益



Ⅱ. 通期計画

II-1. 2016年 通期計画

(単位：百万円)

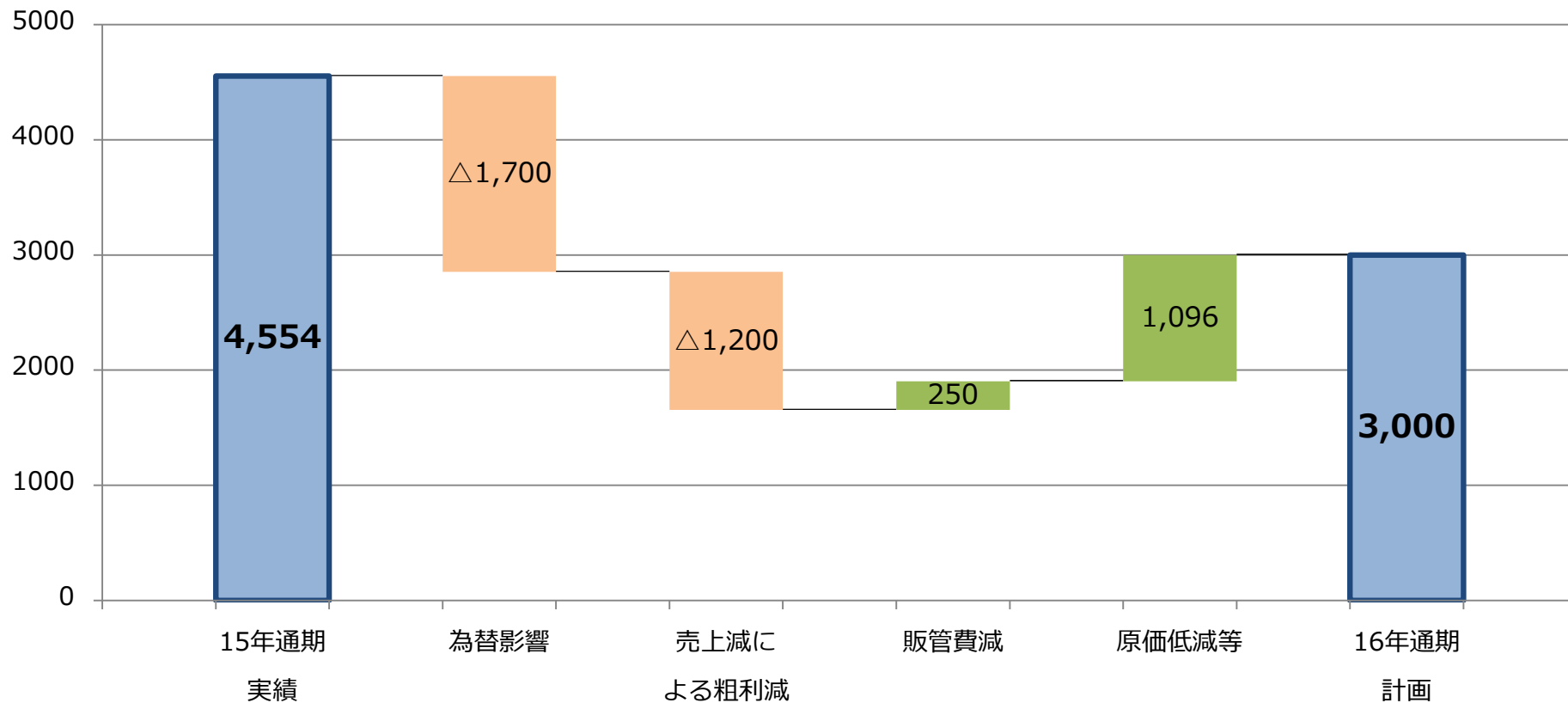
	2015年 通期実績	2016年 通期計画 (4/28)	2016年 修正計画	増減 (対前年)		増減 (対4/28計画)	
				額	率	額	率
売上高	71,946	72,000	64,000	△7,946	89.0%	△8,000	88.9%
営業利益	4,554	5,100	3,000	△1,554	65.9%	△2,100	58.8%
営業利益率	6.3%	7.1%	4.7%	△1.6%	-	△2.4%	-
経常利益	5,140	5,100	3,100	△2,040	60.3%	△2,000	60.8%
経常利益率	7.1%	7.1%	4.8%	△2.3%	-	△2.3%	-
当期純利益	4,048	3,300	1,780	△2,268	44.0%	△1,520	53.9%
純利益率	5.6%	4.6%	2.8%	△2.8%	-	△1.8%	-
ドル	121.11	111.30	108.40	△12.71	-	△2.90	-
ユーロ	134.35	125.60	119.80	△14.55	-	△5.80	-

【通期見直し】

- 下期為替前提の円高方向への見直し（1ドル：110円⇒105円、1ユーロ：125円⇒115円）、直近の下期見通しの考慮等により、通期業績予想を修正。
- 下期も厳しい市場環境の継続が予想されるも、原価低減・販管費削減に注力。

Ⅱ-2. 営業利益変動要因 対2015年通期実績

(単位：百万円)

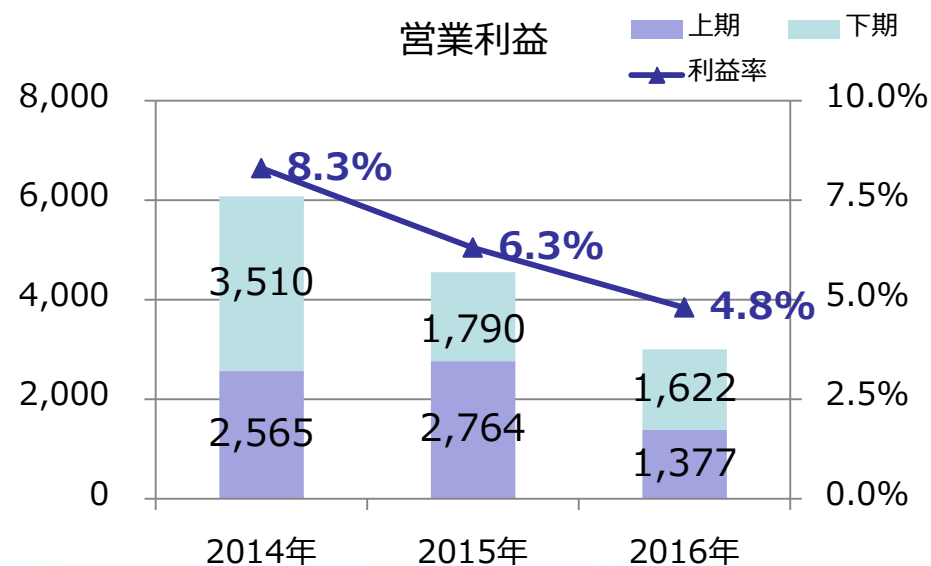
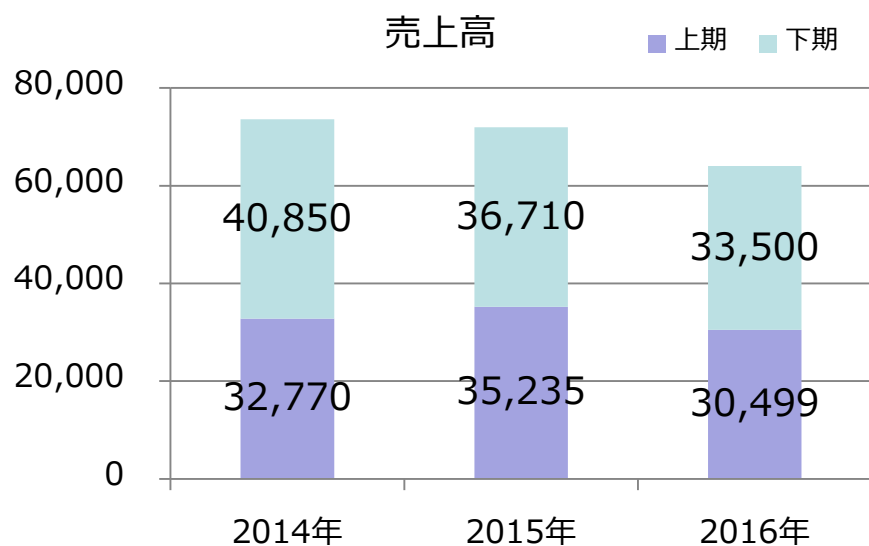


II-3. 2016年 下期計画

(単位：百万円)

	2015年 下期実績	2016年 下期計画 (4/28)	2016年 下期計画	増 減 (対前年下期)		増 減 (対4/28計画)	
				額	率	額	率
売上高	36,710	39,300	33,500	△3,209	91.3%	△5,799	85.2%
営業利益	1,790	3,700	1,622	△167	90.6%	△2,077	43.9%
営業利益率	4.9%	9.4%	4.8%	△0.1%	-	△4.6%	-

➤ ドル・ユーロ共に大幅な円高により減収減益となるも、粗利率向上、販管費の削減に努め、利益率は維持。

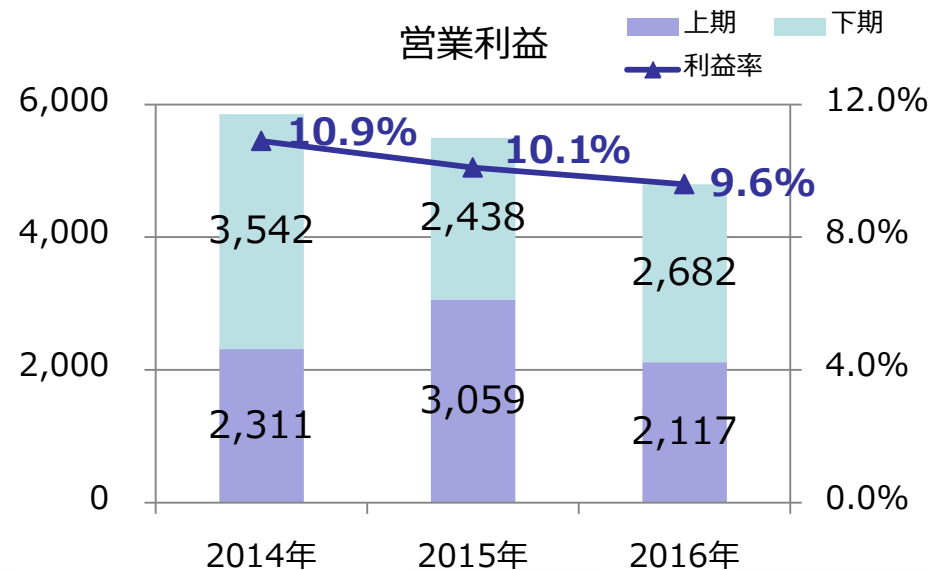
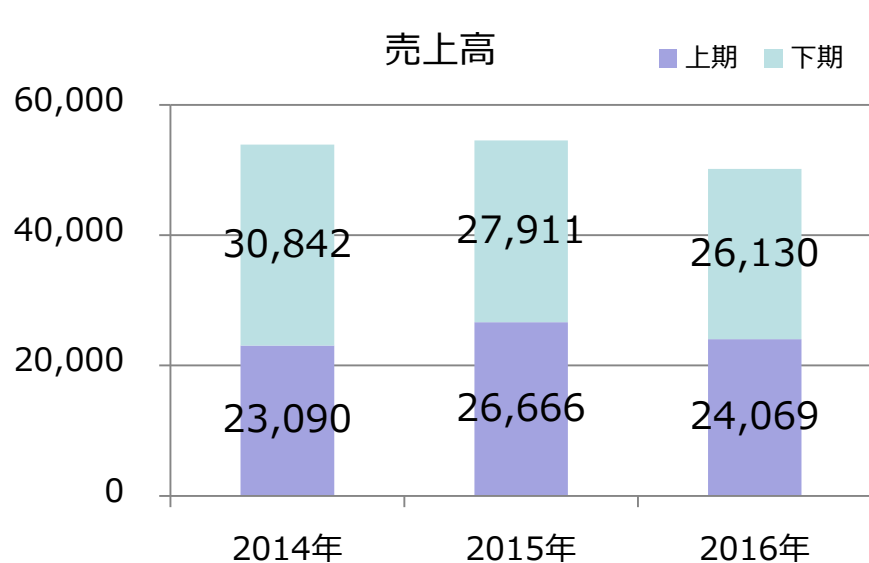


Ⅱ-4. 2016年 セグメント別通期計画 ①写真関連

(単位：百万円)

	2015年 通期実績	2016年 通期計画 (4/28)	2016年 修正計画	増 減 (対前年)		増 減 (対4/28計画)	
				額	率	額	率
売上高	54,578	56,000	50,200	△4,378	92.0%	△5,800	89.6%
営業利益	5,498	6,300	4,800	△698	87.3%	△1,500	76.2%
営業利益率	10.1%	11.3%	9.6%	△0.5%	-	△1.7%	-

➤ 通期では市場低迷・為替のマイナス影響等で減収減益も、下期は減収ながら利益率の向上で増益を見込む。

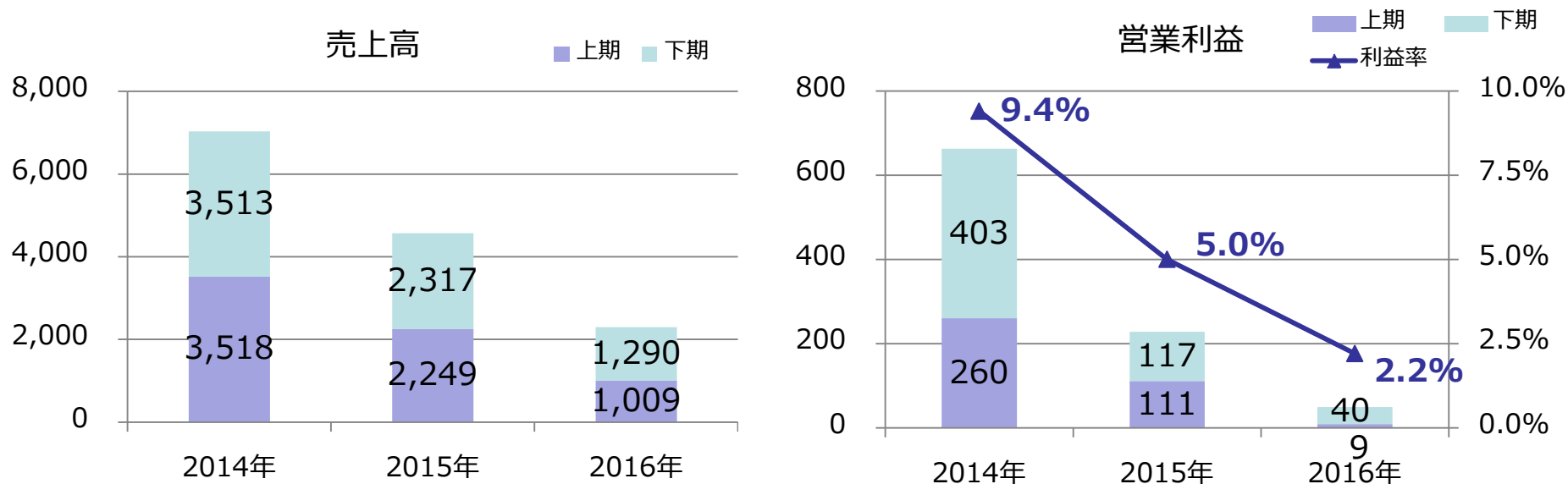


Ⅱ-4. 2016年 セグメント別通期計画 ②レンズ関連

(単位：百万円)

	2015年 通期実績	2016年 通期計画 (4/28)	2016年 修正計画	増 減 (対前年)		増 減 (対4/28計画)	
				額	率	額	率
売上高	4,567	2,800	2,300	△2,267	50.4%	△500	82.1%
営業利益	228	50	50	△178	21.9%	±0	100.0%
営業利益率	5.0%	1.8%	2.2%	△2.8%	-	+0.4%	-

➤ 上期同様に、市場縮小、熊本地震の影響が継続することにより、減収減益。

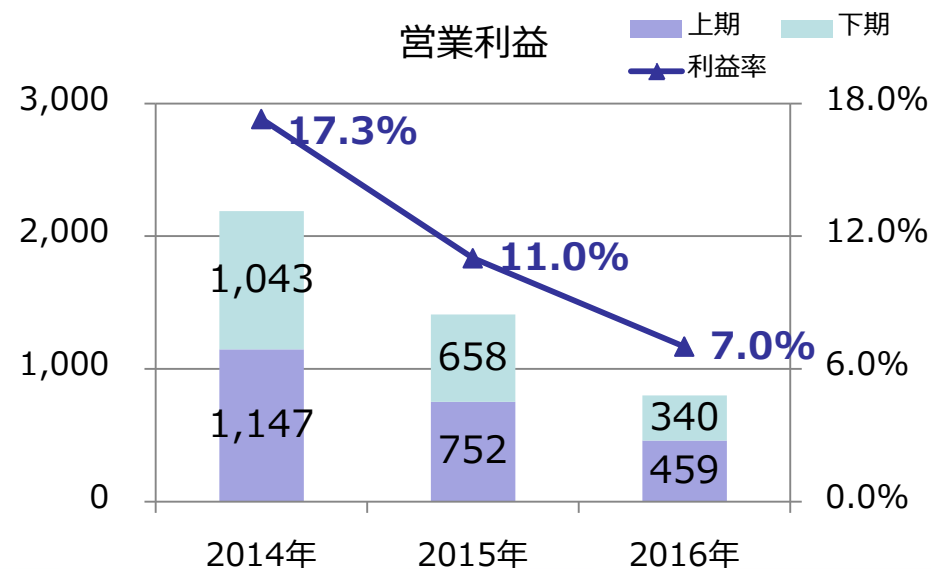
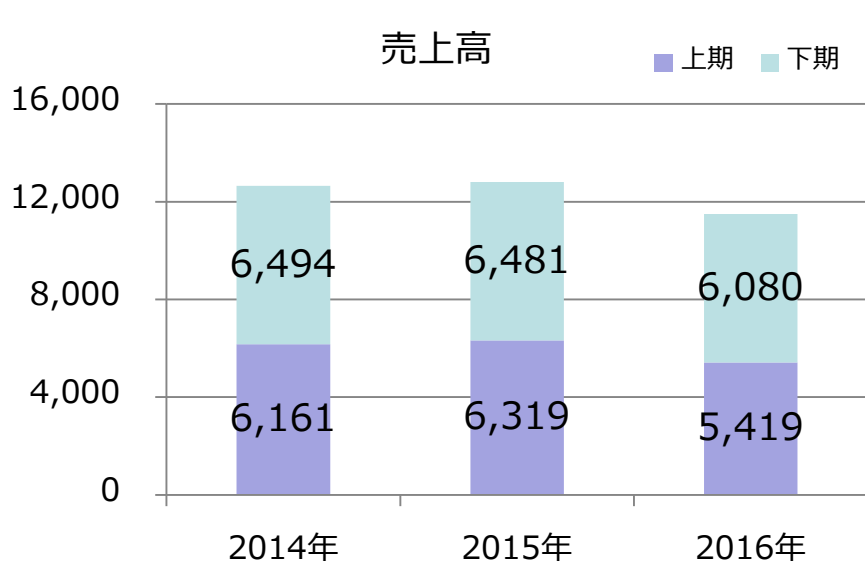


Ⅱ-4. 2016年 セグメント別通期計画 ③特機関連

(単位：百万円)

	2015年 通期実績	2016年 通期計画 (4/28)	2016年 修正計画	増減 (対前年)		増減 (対4/28計画)	
				額	率	額	率
売上高	12,800	13,200	11,500	△1,301	89.8%	△1,700	87.1%
営業利益	1,411	1,450	800	△611	56.7%	△650	55.2%
営業利益率	11.0%	11.0%	7.0%	△4.0%	-	△4.0%	-

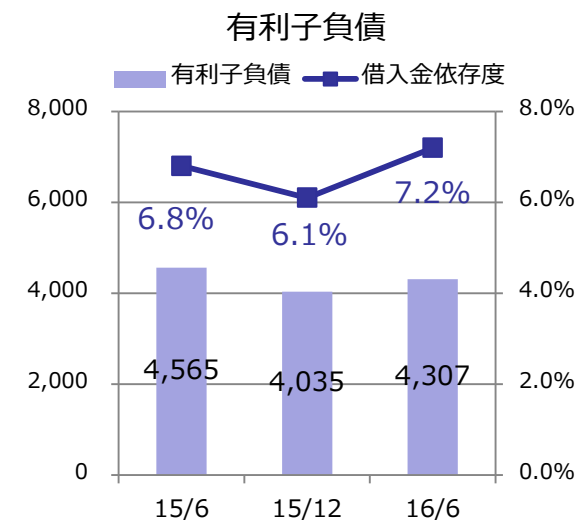
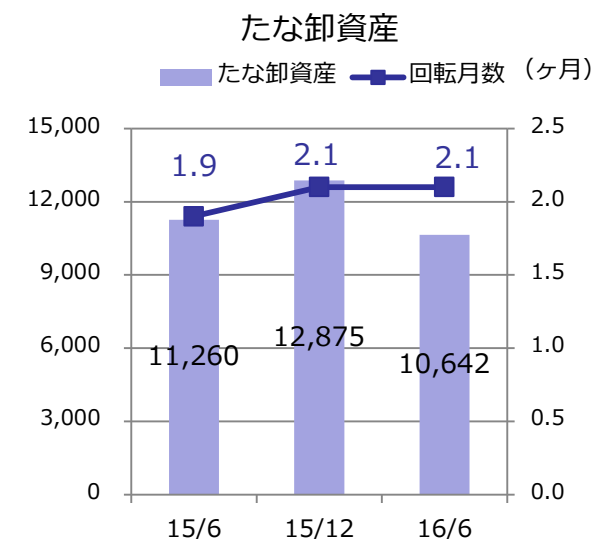
➤ 車載カメラ用レンズの好調を見込むも、監視カメラレンズの低迷継続により、減収減益。



Ⅲ. 財務状況

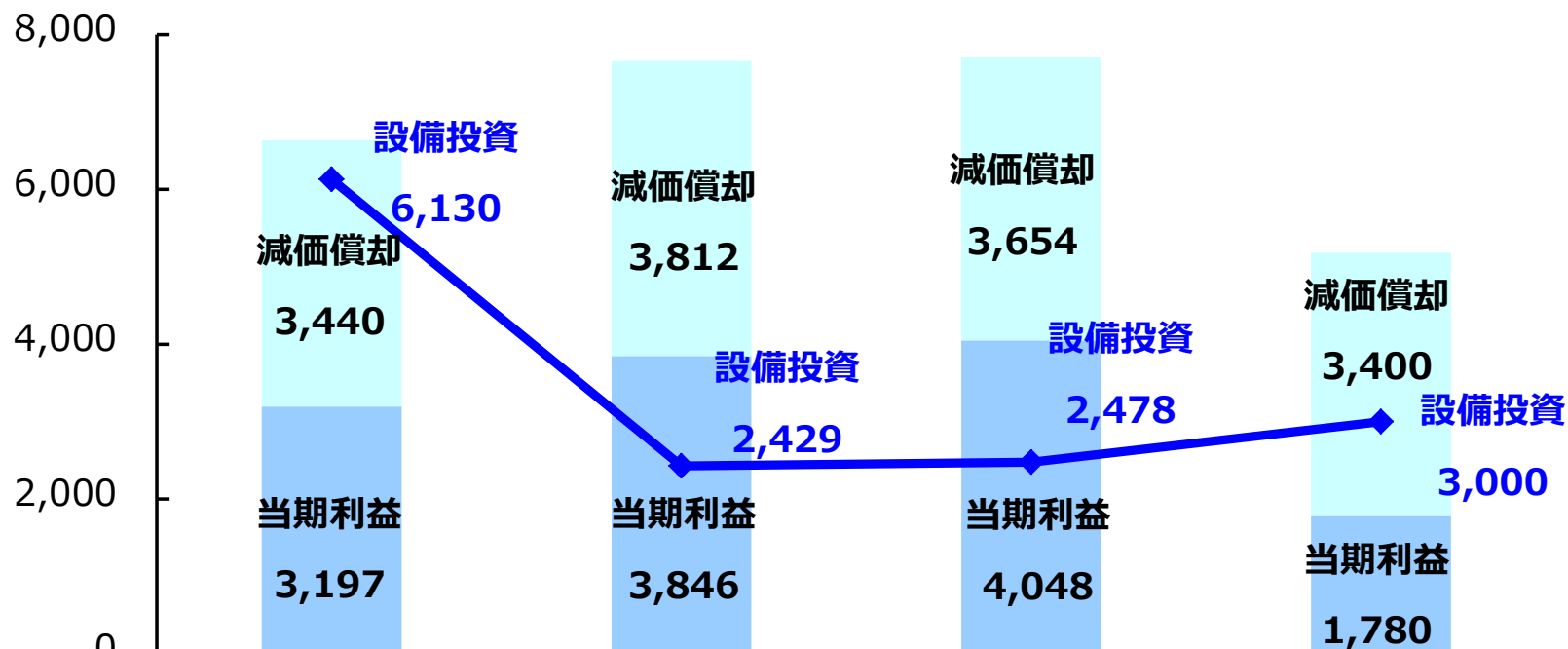
Ⅲ-1. 財政状態

(単位：百万円)	2015年 6月末	2015年 12月末	2016年 6月末	増減 (対前期末)
現金・預金	17,875	14,192	15,083	+891
受取手形・売掛金	13,962	15,804	12,667	△3,137
たな卸資産	11,260	12,875	10,642	△2,233
その他流動資産	1,734	2,047	2,006	△41
固定資産	22,574	21,114	19,056	△2,058
資産合計	67,408	66,035	59,455	△6,579
流動負債	14,550	14,594	11,965	△2,628
固定負債	2,852	2,439	2,662	+223
純資産	50,004	49,001	44,827	△4,174
負債純資産合計	67,408	66,035	59,455	△6,579
自己資本比率	74.2%	74.2%	75.4%	+1.2%



Ⅲ-2. 設備投資額、減価償却費

(単位：百万円)



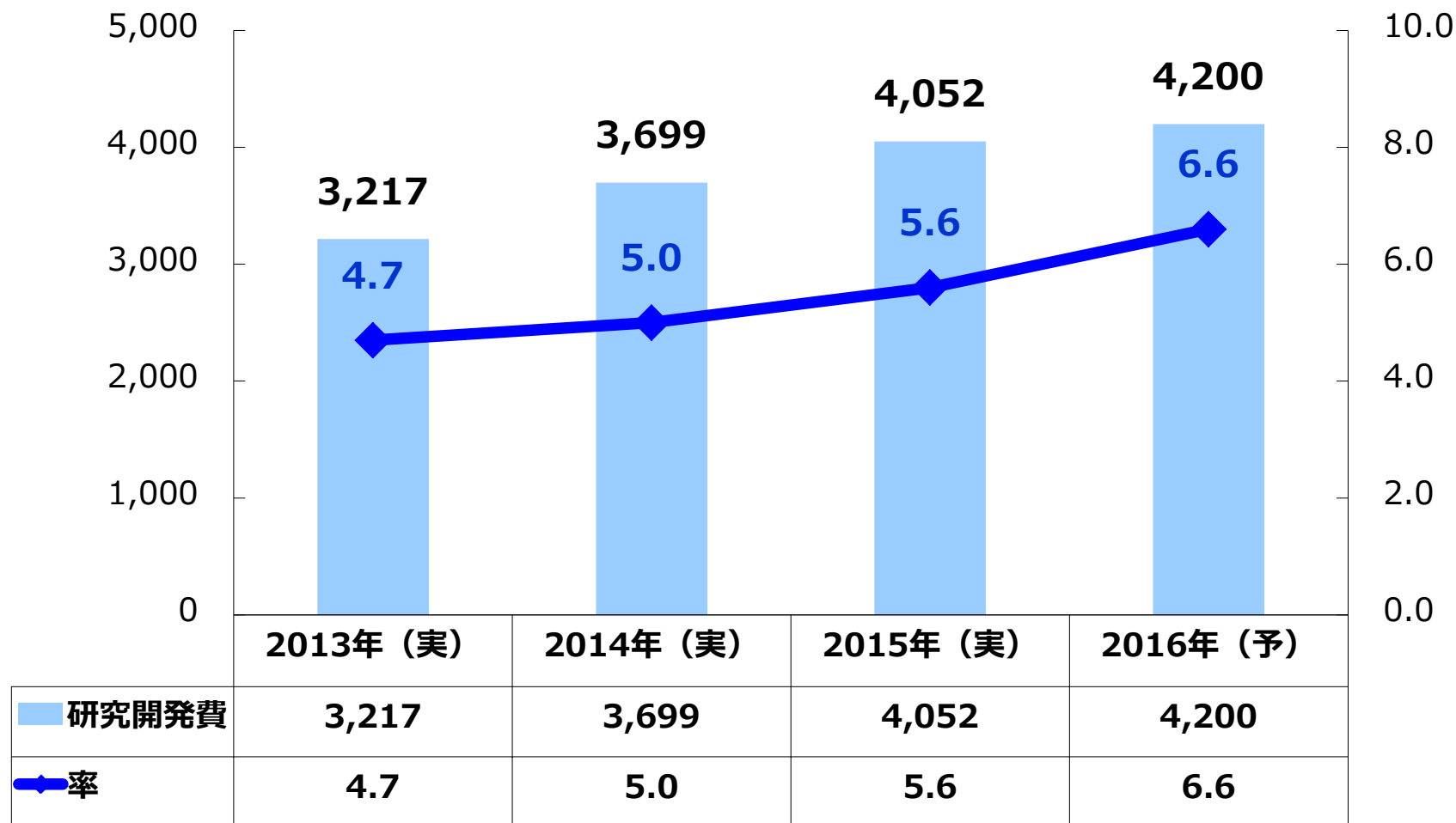
	2013年 (実)	2014年 (実)	2015年 (実)	2016年 (予)
減価償却	3,440	3,812	3,654	3,400
当期利益	3,197	3,846	4,048	1,780
設備投資	6,130	2,429	2,478	3,000

* (実) : 実績 * (予) : 予想

Ⅲ-3. 研究開発費

(単位：百万円)

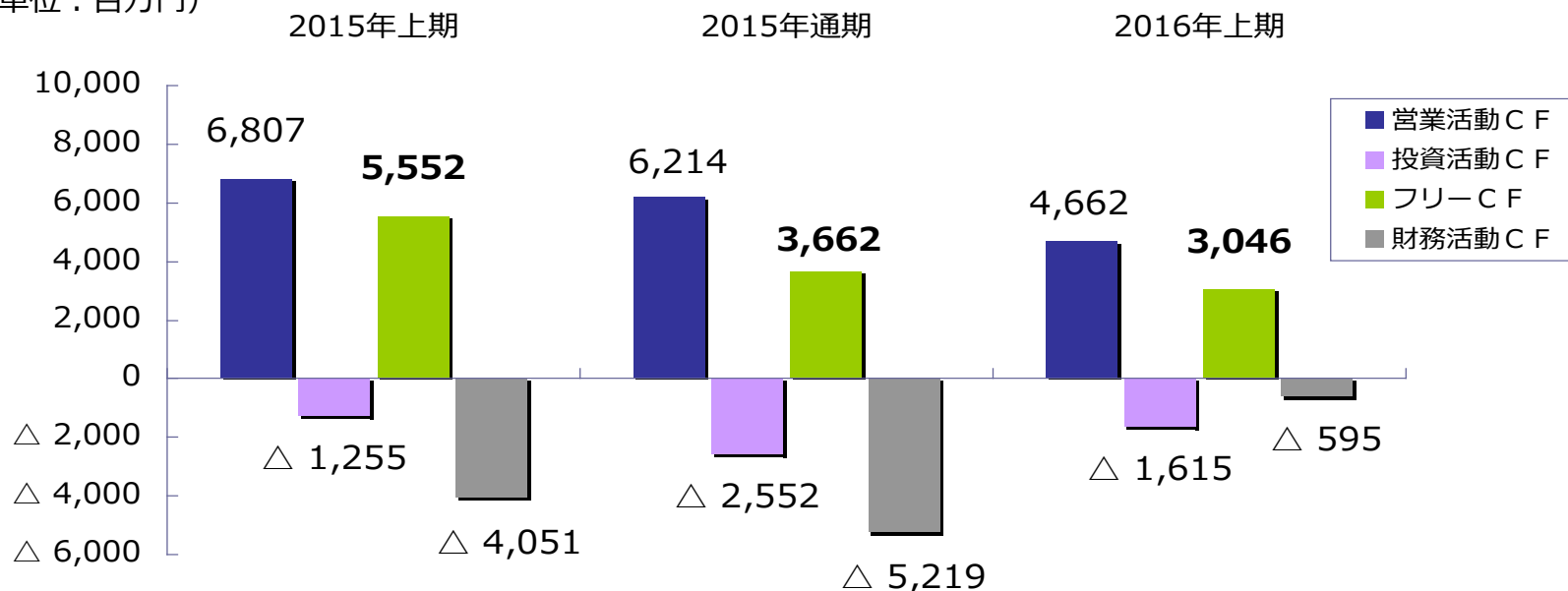
(単位：%)



* 売上高に対する研究開発費比率
* (実)：実績 * (予)：予想

Ⅲ- 4. キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



	2015年上期実績	2015年通期実績	2016年上期実績
営業活動CF	6,807	6,214	4,662
投資活動CF	△1,255	△2,552	△1,615
フリーCF	5,552	3,662	3,046
財務活動CF	△4,051	△5,219	△595
現金及び現金同等物の期末残高	17,875	14,192	15,083
手元流動性 (ヶ月)	3.04	2.37	2.97

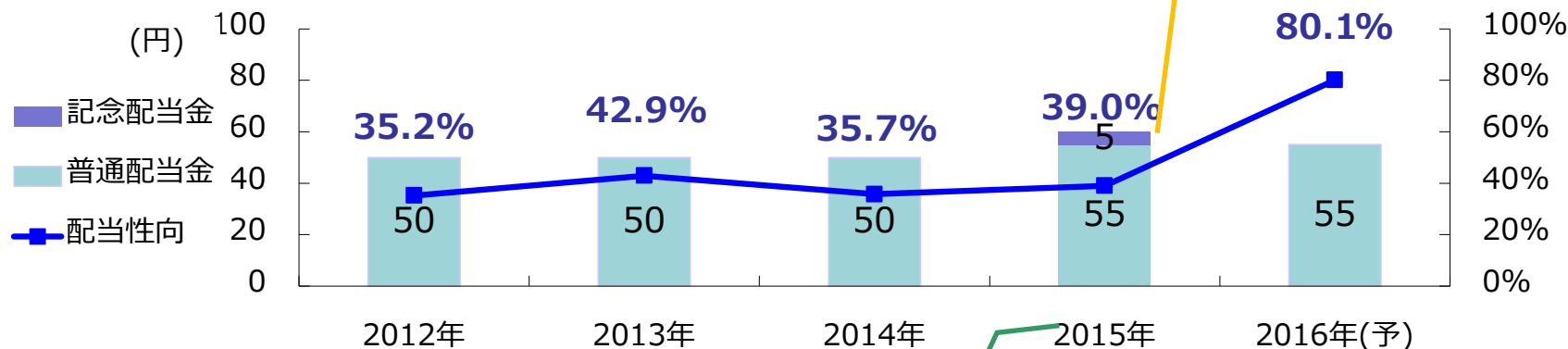
Ⅲ-5. 配当金の推移

➤ 普通配当を据え置き予定（2015年は記念配当5円実施）

(単位：円)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年 (予定)
中間	20.00	20.00	20.00	25.00	25.00
期末	30.00	30.00	30.00	35.00	30.00
合計	50.00	50.00	50.00	60.00	55.00
配当性向(連結)	35.2%	42.9%	35.7%	39.0%	80.1%

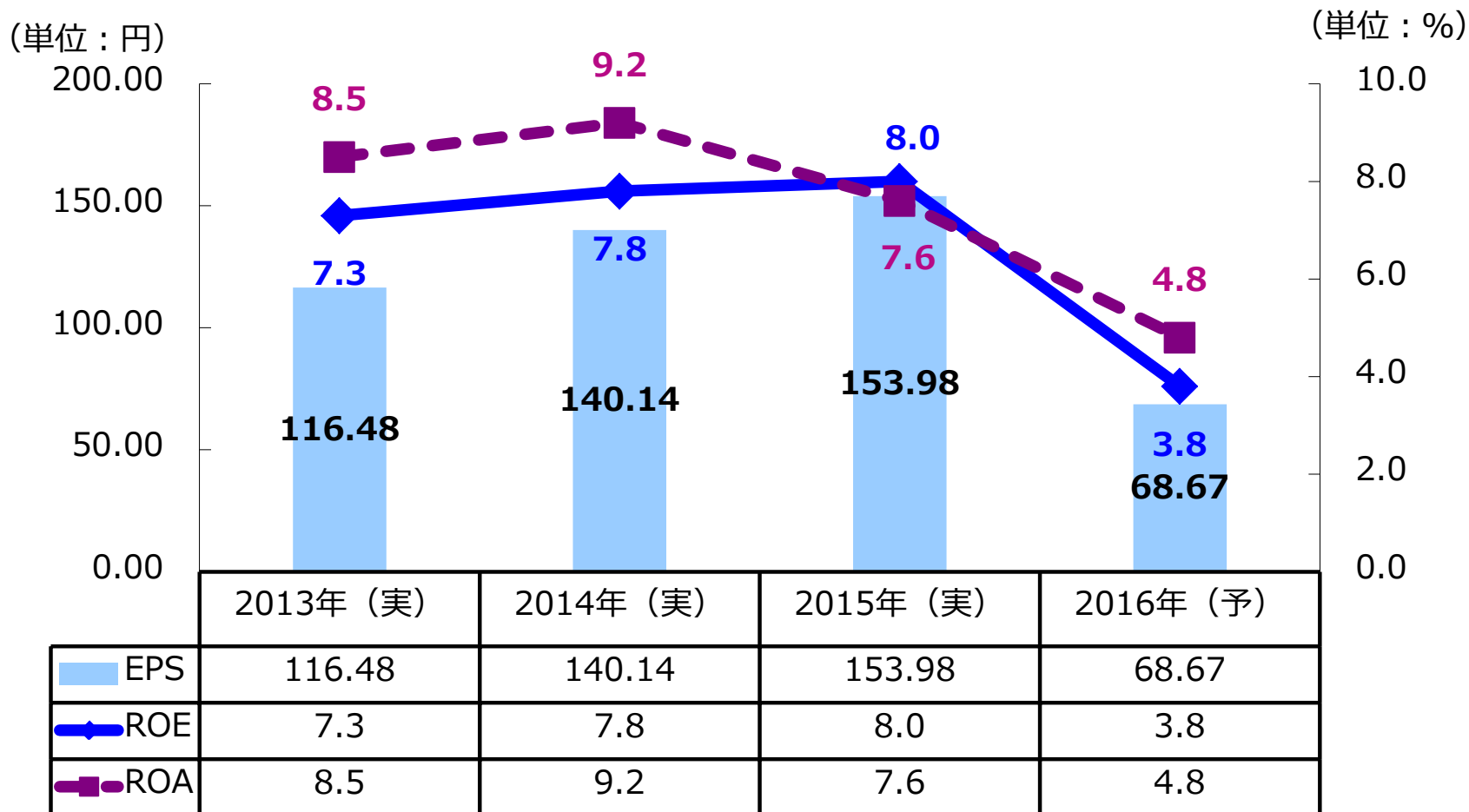
配当政策

- ・ 安定配当
- ・ 配当性向目標(連結ベース)：35%程度



Ⅲ- 6. 参考データ

(1) 主要経営指標



ROE = 当期純利益/純資産 (分母は期中平均)

ROA = 経常利益/資産合計 (分母は期中平均)

Ⅲ-6. 参考データ

(2) 為替感応度

① 2016年上期実績

	為替レート		影響額	
	2015年上期実績	2016年上期実績	売上高	営業利益
米ドル	120円31銭	111円72銭	△9.0億円	△1.5億円
ユーロ	134円14銭	124円56銭	△5.0億円	△4.0億円
他通貨	-	-	△3.0億円	△0.5億円
合計	-	-	△17.0億円	△6.0億円

(前期実績に対する影響額)

② 2016年下期予想

	為替レート	1円の変動 (円高)による影響額	
	2016年下期前提	売上高	営業利益
米ドル	105円00銭	△1.6億円	△0.1億円
ユーロ	115円00銭	△0.6億円	△0.5億円

IV. 中期経営計画

代表取締役社長 鯨坂 司郎

IV-1. 変革テーマ

テーマ

課題認識・方針

実行施策

マーケティング力、
営業力の強化

- ・ **マーケティング機能強化**
- ・ **提案型営業への変革**

- ・ 営業体質の変革による、提案型営業化の推進
- ・ リピーター増加、指名買い増加の施策実施

顧客感動を得ら
れる商品創り

- ・ **独創性のある商品企画**

- ・ 商品企画部門の強化
- ・ 顧客要望を取り入れる仕組みの構築

販売、生産、開発
のグローバル化

- ・ **海外拠点の機能拡充**
- ・ **生産体制の確立**

- ・ 海外販社のテリトリー拡充
- ・ 海外生産拠点での開発体制の構築
- ・ 3極生産体制（日本/中国/ベトナム）の確立
- ・ ベトナム工場の黒字化、現地調達率の向上

開発体制
の再構築

- ・ **中長期的視野の開発推進**
- ・ **開発 L / T の短縮**

- ・ 研究開発センターの立上げ
- ・ 設計～生産までの横断PJの立上げ
- ・ 開発部門の再編による開発効率の向上

新規事業
の育成強化

- ・ **業務・資本提携も含めた
協業関係強化**

- ・ 市場リーダーとの協力的なパートナーシップ構築
- ・ 経営資源の選択と集中
- ・ 業務・資本提携、M & Aの積極活用

企業体質
の改善

- ・ **組織体制・人事制度の改革**
- ・ **ガバナンス体制の改善**

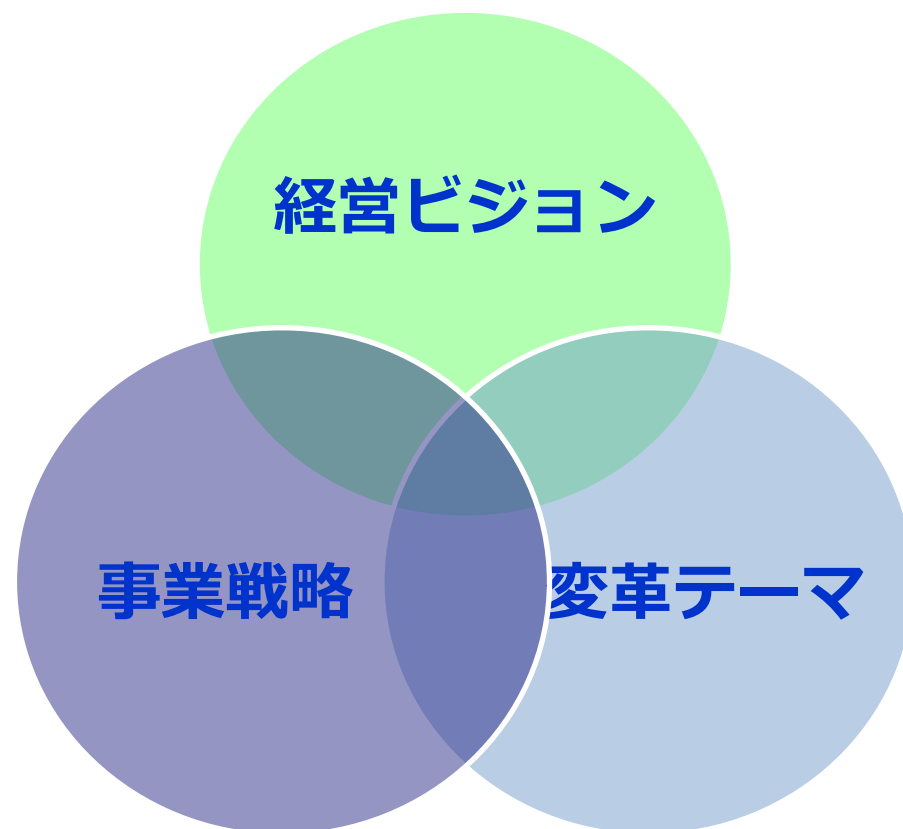
- ・ 組織体制のフラット化、スリム化
- ・ 権限・責任の明確化が図れる組織への再編
- ・ 人事制度見直し含む評価システムの再検討
- ・ 自社に合ったガバナンス体制の構築

IV-2. 中期目標

2018年目標

売上高	920億円
営業利益	86億円
営業利益率	9.3%
ROE	10%以上

※為替前提：1米ドル=120円
1ユーロ=130円



IV-3. 事業戦略

	2018年 売上高目標 (売上構成比)	事業戦略
写真関連 事業	665億円 (72.3%)	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">中核事業として収益性向上⇒事業基盤の強化</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性のある新製品開発、タイムリーな市場投入 ・ 新興国市場の販売体制強化 ・ 低マーケットシェア地域での販売強化 ・ 企画提案型OEMビジネスの強化

15年モデル

15年9月発売



単焦点



35mm F/1.8 VC USD (F012)

45mm F/1.8 VC USD (F013)

14年12月発売



ワイドズーム

15-30mm F/2.8 VC USD (A012)

15年8月発売



クラス最軽量高倍率ズーム

18-200mm VC (B018)

16年以降投入モデル

16年2月発売



マクロレンズ

90mm F/2.8 VC USD (F017)

16年3月発売



単焦点




85mm F/1.8 VC USD (F016)

16年下期も新商品投入

17年以降の
投入モデル数増

- ・ 高性能・小型・軽量
ラインナップ拡充
- ・ リニューアル
(付加価値向上)

IV-3. 事業戦略

	2018年 売上高目標 (売上構成比)	事業戦略
レンズ関連 事業	34億円 (3.7%)	<div data-bbox="587 401 1798 486" style="background-color: #f96; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 市場縮小分野の投資抑制⇒事業領域拡大の探求 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・市場縮小分野への新規投資抑制 ・開発リソースの見直し ・ドローン事業参入（得意分野を生かし新規分野へ参入） ・遠赤外線光学系レンズのコストダウンと受注強化 <div data-bbox="1586 532 1860 715" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: right;">ドローン市場への参入</p>
特機関連 事業	221億円 (24.0%)	<div data-bbox="587 836 1798 922" style="background-color: #00b050; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 経営資源の積極投入⇒中核事業への育成、次世代事業の創出 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・技術革新、中国市場での挽回による監視カメラ用レンズ事業の再強化 ・車載用レンズ強化（センシング(画像認識)用途への注力等による） ・カメラモジュールビジネス（小型・超高感度等）の育成 ・M&A含む共創による新事業の推進 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div data-bbox="1296 1105 1570 1282" style="text-align: center;">  <p>監視カメラ用レンズ</p> </div> <div data-bbox="1638 1105 1879 1282" style="text-align: center;">  <p>車載用レンズ</p> </div> </div>

将来の事象に係る記述に関する注意

1. 本資料は、2016年12月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本プレゼンテーション資料及び当社代表者が口頭にて提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
3. 実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があり得ますことをご承知おき下さい。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。